

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1ヶ月

| 項目 | 金額 | 内訳 |
|--------|---------|--------------------------|
| 食費 | 約5万円 | プログラム費用に昼食代は含まれているため昼食以外 |
| 学用品購入費 | なし | |
| 交通費 | 約8,000円 | 定期(プログラム費用に含まれる) |
| その他 | 約5万円 | 通信費、お土産代、観光費など |
| 合計 | 約11万円 | |

(2) 派遣先周辺地域の治安等

ミュンヘンはドイツで最も治安が良いと言われている地域でとても住みやすいです。

寮は1972年のミュンヘンオリンピックのオリンピック村にあり、多くの学生が住んでいます。最寄りの駅まで徒歩3分程度で行くことができ、中心部までは地下鉄で15分程度、病院までは30-40分と交通の便も良いです。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）

寮の部屋の中で携帯のネット接続状態が悪く、非常に不便でした。また、寮にWi-FiがないためLANケーブルとアダプタを持参して有線で接続する必要がありますが、この設定が少し難しいのと、何度も不具合が起きて最終的には諦めました。

寮の中には必要最低限のものしかないので、ドライヤーやタオル類は日本から持って行く必要があります。

鍵がオートロックのため他の参加者とスペアの鍵を交換しておくといいです。私は、初めの方は交換しておらず、一度インロックしてしまいその後の対処が非常に大変でした。

5 実習について

| 実習診療科と主な内容（ 消化器内科 Gastroenterology ） | |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 実習内容 | ① 朝8時から朝カンファレンス(約30分) |
| | ② 採血(1~2時間) |
| | ③ エコー、心電図、身体診察 |
| | ④ IC見学 |
| | ⑤ 内視鏡、ERCP等の見学(日による) |
| | ⑥ 回診(約2時間) |
| | ⑦ 講義(午後に約1時間半) |

(1) プログラム初日の行動

Oncology Winter Schoolの参加者全員で9:00-11:30のイントロダクションを受けました。自己紹介やプログラムの説明、病院内の案内がありました。昼食後は各自割り当てられた病棟に移動してそれぞれの先生に付いて手技のお手伝いなどをしました。

(2) 実習詳細

各参加者はランダムに各病棟に割り当てられ4週間を通して同じ病棟で実習するという形でした。今年は血液腫瘍内科に約7割の参加者が割り当てられ、それ以外は消化器内科、産婦人科、整形外科に1組ずつとなっていました。

私の場合は、スタディバディがないという想定外の事態が起きてしまったため、病棟を回っている現地の6年生や先生方のサポートを受けながら実習を行いました。採血やルート確保などは初めのうちは慣れませんでした。アドバイスをもらいながら毎日やっていくうちに少しずつコツが掴めて楽しめるようになってきました。その他、腹水穿刺や胸水穿刺、抜糸などもやらせていただきました。

消化器内科の病棟に割り当てられており病棟内での仕事は内科的なアプローチがメインでしたが、先生方が内視鏡室の他の先生方に繋いでくださり、胃カメラや結腸内視鏡検査、内視鏡超音波検査、ERCPの見学などもさせていただきました。

午後の講義では、整形外科腫瘍、肺癌、白血病、小児癌、乳癌といった臓器別の講義や免疫療法、放射線治療、緩和ケア、Case Discussion、Teaching Round と呼ばれるベッドサイドラーニングなど多岐にわたる講義が行われました。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

| 時間 | 8:00 | 9:00 | 10:30 | 13:00 | 14:30 | 16:00 |
|----|---------------------|---|---------------------|-------|-------|-------|
| 行動 | カンファレンス or 採血 | 採血 エコー 心電図 身体診察 IC 内視鏡見学 など | 回診 or 内視鏡見学など | 昼食 | 講義 | 解散 |

(4) 休日の過ごし方

何日かの週末はバスツアーや観光のスケジュールがプログラムのスタッフによって組まれており、留学生たちとともに参加しました。他の週末は留学生たちと遠出する計画を立てて旅行したり、市内の観光スポットを一緒に巡ったりして楽しみました。

(5) 留意事項等 (予習しておくこと、困ったこと、持参するとよいもの等)

予習しておくこと：英会話、医学英語、ドイツ語(基本的にドイツ人は母国語と同じレベルで英語が堪能なので趣味程度で大丈夫です)

困ったこと：当初予定されていた私のスタディバディがプログラムをキャンセルしたとのことで、不自由な場面が多々ありました。

持参するとよいもの：聴診器、白衣 スクラブは院内のものを着用していました。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

このプログラムの最大の魅力はWinter Schoolという1ヶ月のプログラムが用意されていて世界中からの医学生とともに参加できる点だと思います。今年度は留学生と現地の学生合わせてOncology Courseに16名、Neurology Courseに10名が参加していました。実習や講義の時間だけにとどまらず、世界各国からの参加者と過ごす時間は本当に刺激的で、各国の文化や医学教育制度など実に多様なことを学び、交流ができたことは貴重な経験となりました。

また、ミュンヘン大学の实習では、6年生の学生が給料をもらいながら医師と同様に働いている姿が印象的でした。6年生だけでなく、他の学年の学生も、医師や看護師からの信頼が厚いように感じました。学生だけで患者さんの採血やエコー、IC、カルテ記載などを行なっている姿は衝撃的でした。

回診やICの際には医師も学生も、患者さんとのコミュニケーションを大事にしている様子を肌で感じることができました。時には1人の患者さんの回診に30分から1時間かけることもあり、様々な違いを体感することができたように思います。

医師の皆さんもとても優しく親切で、教育熱心な方が多かったように思います。皆さん気さくで、年齢や立場に関係なく良好な関係を築いており、忙しいながらも明るい雰囲気の中で仕事をしている姿は忘れられません。

実習中や講義では学生からの質問が多く飛び交い、議論が活発に行われていた様子も印象的で、この姿勢をぜひ見習いたいと感じました。また、どんな質問でも恥ずかしくない学生側の探究心、些細なことでも学生からの質問に真摯に向き合おうとする医師の熱意に感銘を受けました。

病棟実習だけでなく、週末にはプログラムの一環として観光ツアーが組まれていたこともとてもありがたかったです。ドイツの歴史や文化を学ぶ貴重な機会となりました。

また、留学生が皆同じ建物内に住んでいるという環境もありがたく、密な交流ができたことで、より仲が深まったように思います。

現地では大変に感じることも沢山あったのですが、その都度、日本人の学生、留学生仲間や現地の学生、先生方など本当に多くの方々に助けられ支えられ、1ヶ月を過ごすことができました。国境を越えた人の温かさや繋がりを感じた瞬間でもありました。

(2) 今後の展望

1ヶ月の滞在でしたが、多くのことを実際に見聞きし、経験しました。日本の医療の良さを大事にしつつも常に広い視野を持って周りに目を向けていきたいと思いました。日本の中にいるだけでは気付くことのできなかつた視点がたくさんあります。英語というハードルの高さから今まで避けがちになってしまっていたことにも積極的に挑戦していきたいと思います。

(3) 後輩へのメッセージ

私もそうだったのですが、英語が得意でないという理由だけで諦めてしまうのは本当にもったいないので果敢にチャレンジしてほしいです。今回のプログラムを通してできた友人や繋がり、得られた気付きや学びは一生の財産です。英語が重要となる時ももちろんありますが、「コミュニケーションは結局 Passion」と言っていた留学生の言葉通りだと感じる場面が多々ありました。大袈裟に聞こえるかもしれませんが、このプログラムに参加する前と終えた後とでは世界の見え方が違います。

英語力や医学知識が完璧である必要は全くなく、これらの習得にエネルギーを注ぎ込むよりは寧ろ、後輩の皆さんがそれぞれのペースでそれぞれの学びを得てくれたら幸いです。

(4) その他

プログラムの機会を提供して下さった横浜市立大学医学部とミュンヘン大学のお陰でこのような素晴らしい経験をさせていただくことができ、関わって下さったすべての先生方、事務の方々に感謝申し上げます。医学教育推進課担当の皆様には様々な手続きや準備、情報共有など沢山のサポートをしていただきました。さらに、俱進会、医学部後援会の皆様にも多大なご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

この場をお借りして深く御礼申し上げます。

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 T. I. 学年（留学当時） 5年

実習期間 R6年 3月 4日（月） ～ R6年 3月 28日（木）

留学先機関名 Ludwig Maximilians University of Munich

1 プログラム内容について

- (1) 参加した留学プログラム
 ・海外クリニカル・クラークシップ

2 現地までの移動について

| | | 空港名 | 時間 | | 空港名 | 時間 |
|----------------------------|---|-----|------------|------|-----|------------|
| 往路 | 日本発 | NRT | 3/1 16:55 | 現地着 | MUC | 3/2 6:15 |
| | 経由地着 | AUH | 3/2 0:35 | 経由地発 | AUH | 3/2 2:45 |
| 復路 | 現地発 | MUC | 3/29 10:45 | 日本着 | NRT | 3/30 12:30 |
| | 経由地着 | AUH | 3/29 19:30 | 経由地発 | AUH | 3/29 22:05 |
| 到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額 | 移動手段：電車 所要時間：60分 金額目安：49ユーロ（DEUTSCHLAND TICKET、1か月乗り放題） | | | | | |

DEUTSCHLAND TICKET 費用は寮費等の事前振り込み済みの費用（*、下記3参照）に含まれていました。そのため、日本出国前にTICKETを専用アプリ上で自身で購入してから行きますが、現地において初日に現金で返金されました。また、3/10までにキャンセル手続きをしないと、自動更新で4月分も購入されてしまうので、忘れずに手続きを行う必要があります。

3 宿泊先について

| | | | |
|-----------|-----------------------|------------------------|------------------------------|
| 滞在期間 | R6年 3月 2日～ 3月 29日 | | |
| 宿泊タイプ | 寮 | 1人部屋 共有設備：ランドリー（乾燥機付き） | |
| | ホテル・アパート | 人部屋 | |
| | ホームステイ | 人家族 自分以外の留学生（ ）人 | |
| | Airbnb・シェアハウス | 人で共同 | ホストの同居；あり・なし 共有設備： （ ） |
| 実習場所までの距離 | 電車で40分 | | |
| 宿泊費用 | 173,531円/1ヶ月（*諸々費用込み） | | |
| 住所 | [REDACTED] | | |

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1 ヶ月

| 項目 | 金額 | 内 訳 |
|----------|-----------|------------------------------|
| 生活費 | ¥46,341- | 家での夕食や日用品。主な昼食は病院食で代金は*に含む。 |
| 学用品購入費 | ¥0- | Admission fee や授業料は*に含む。 |
| 海外旅行保険費用 | ¥13,420- | J-TAS 費用含む。 |
| 交通費 | ¥0- | DEUTSCHLAND TICKET を使用。*に含む。 |
| 交際費 | ¥168,920- | 外食や遠出代、お土産代など。 |
| 航空券費用 | ¥277,500- | 往復路。 |
| その他 | ¥23,704- | 出国前の必要経費やSIM、生活必需品などを含む。 |
| 合計 | ¥529,885- | |

(2) 派遣先周辺地域の治安等

寮の周辺及び病院の周辺の治安は非常に良いように感じました。しかし、少々中心部から遠ざかると、治安の悪化を感じた地域もあったため、用心するに越したことはないと思います。電車でも気さくな方が多く、治安はとても良いです。

(3) その他留意事項等（持参してよかったもの、困ったこと、事前に確認するとよいこと等）
あちらでの節約、手間の省略のため、夕食分は適量日本から持参しました。シャンプー等は硬水軟水で日本と違うため、念のため現地購入としました。寮には寝具や冷蔵庫、食器類等ついていますが、タオル（1枚のみ備え付け）及びドライヤーが備わっていないため、持参するか、現地購入するかになります。ドライヤーを持参する場合は変圧器を用いるか、海外対応のものを購入する必要があります。また電子レンジはありませんでした。

ネット環境に関してですが、Wi-Fi はついていませんが有線回線があるため、LAN ケーブルと変換ケーブル（ともに持参）を用いて PC につなぎ、PC を Wi-Fi ルーターの代替として使用しました。

ランドリー（乾燥機付き）は共有の設備があり、有料（洗濯 0.5€、乾燥 0.4€、洗剤 0.5€、カード使用可）で使用することができます。

以下に部屋に備わっていたものの一覧を記します。

- ・ハンドソープ、トイレットペーパー
- ・平皿1枚、フォーク、ナイフ、スプーン大小、鍋1つ、冷蔵庫、コンロ2口、食器洗剤、スポンジ
- ・シーツ、布団、布団カバー、枕、枕カバー、タオル（各1つずつ）
- ・机、テーブル

また、寮の周辺にはスーパーマーケットやアジアンスーパーマーケット、パン屋などがそろって

いました。

5 実習について

| 実習診療科と主な内容 (Stroke Unit, Neurology) | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 実習内容 | ① 回診 (コメディカルとのもの、教授回診、ディレクターとのものなど) |
| | ② 採血や腰椎穿刺、EKG、神経診察など |
| | ③ 脳卒中救急見学 |
| | ④ 講義 |
| | ⑤ 研究室見学、ディスカッションなど |

(1) プログラム初日の行動

初日は 3/3(月) 11:00am に集合し、1 時間ほどオリエンテーションを行いました。そこでは自身のバディの紹介や (前日に Welcome Dinner で会っているため)、NWS に来た理由などを聞かれました。昼食をとった後、バディと一緒に病棟に行き、業務の見学をしました。17 時半前に 1 日目は終了となりました。

(2) 実習詳細

基本は午前が病棟実習、午後は講義や研究室見学、Case Discussion などで構成されていました。私は Stroke Unit に配属され、回診への参加や採血・心電図測定・腰椎穿刺などの業務、脳卒中救急の見学などを行いました。回診中は患者情報の書かれた紙が渡されるので、それを翻訳しつつ確認して、分からないところなどはバディに聞いていました。採血などの手技を行うことができることが特徴だと感じました。

午後の講義などはすべて英語で行ってもらうことができます。講義中は自由に質問などができる雰囲気となっていました。

実習の終了時間ですが、基本は 17:15 までですが、15:00 前後や 16:00 前後に終わる日もありました。

また、通常の実習日の他に、外部病院で実習する機会もありました。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

| 時間 | 6:00 | 7:00 | 8:00 | 13:00 | 14:00 | 15:45 | 17:15 | 18:00 | 19:00 | 20:00 | 23:00 |
|----|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 行動 | 起床 | 出発 | 病棟実習 | 昼食 | 講義 | 講義等 | 終了 | 帰宅 | 夕食 | 自由時間 | 就寝 |

(4) 休日の過ごし方

以下のように週末などには他の留学生と合同でツアーなどが組まれていました。

| Date | Time | Programs |
|---------|-------------|-------------------|
| 3/2 Sat | 14:00-16:00 | Welcome Reception |

| | | |
|----------|-------------|--|
| 3/3 Sun | 19:00-21:00 | Welcome Dinner |
| 3/10 Sun | 13:00-15:00 | Sightseeing Tour of Munich by bus |
| 3/17 Sun | 8:00-17:00 | Daytrip to castle “Neuschwanstein” by bus |
| 3/22 Fri | 13:00-18:00 | Excursion to the Concentration Camp Memorial Site Dachau |

3/2 到着日の夕食を 7-8 人で一緒に取り、3/3 の Welcome Dinner 前は昼過ぎからミュンヘンの観光を他の留学生と一緒にしました。

平日の夜を含め、他の日は他の留学生とミュンヘンを観光したり、食事をしたりして過ごすことが多かったです。それぞれの部屋で夕食を振る舞う機会も多くありました。

ホームパーティーに参加したり、少し離れた場所に旅行したりする機会もありました。

(5)留意事項等（予習しておくことよいこと、困ったこと、持参するとよいもの等）

参加したプログラムが Neurology Winter School であったため、講義を理解するためにも Neurology に関する医学英語を一通り勉強しておく必要があります。スクラブは現地で貸し出しがあるため持参する必要はありません。初日は白衣が必要という旨のメールを受け取っていましたが、結局使用しませんでした。しかし、聴診器を使用する場面は何度かありました。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

このプログラムは International Student と LMU Student の 2 人 1 組でセットとなるバディ制度が採用されており、病棟は基本的にドイツ語であるため、バディに翻訳や手技に関する補助をしてもらうことができます。

今年度は Oncology から 16 人、Neurology から 10 人が参加しました。参加者の国籍はイタリア、スロベニア、ベトナム、ブラジル、中国、フランス、イラン、ルクセンブルク、ギリシャ、ドイツなど多岐に渡りました。名古屋大学からも今年度は NWS に 2 人参加者がいました。基本全てが英語の International medical school に通っている人も多く、LMU の学生含め他の留学生は想像よりはるかに流暢に英語を話します。医学英語もちろん大切ですが、それと同等かそれ以上にいかに英会話を習得してからこのプログラムに参加するかが重要だと感じました。このプログラムの特徴はやはり、他の留学生や LMU の学生とともに実習だけでなく生活面でも 1 ヶ月一緒に過ごすことができることにあります。きっと 1 ヶ月間で一生ものの友人を作ることができるであろうと思います。

また、このプログラムを通して、多くのことを感じ取ることができました。1 つは日本とドイツの医療制度の相違点です。日本の方が優れていると感じる点、日本にも導入できる、すべき、今後していきたい点なども多々ありました。

もう 1 つはやはり日本と欧米諸国の英会話能力の差異です。これには日本の良い点悪い点両方が関与していると思いますが、ヨーロッパ諸国には多くの International medical school が存在しており、当たり前のように英語で医学を学んでいる人も多いことには驚きました。世界的に需要がないわけではない日本という国で、まだまだそのような International school の供給が足りていないと感じました。

(2) 今後の展望

今回の経験を通して、やはり自分が将来何をしたいのか、より明確に考えることができるようになったと感じています。というのも、参加者には自国でなく他国の医学部に入学している人も少なくなく、多様な生き方があると改めて感じる事ができたためです。この経験を活かして、将来 Neurology の分野に貢献できるよう今後も精進していく所存です。

(3) 後輩へのメッセージ

海外で臨床実習をしたいだけでなく、海外で新たな友人を作り、様々な価値観を見聞きたい、そんな人にこのプログラムは強くお勧めできると思います。また、午前は実習、午後は講義とメリハリがついているので、実習だけでなく英語で講義を受ける経験もしたいという人にもお勧めです。来年度も名古屋大学からの参加者がいましたら、繋げることもできると思います。様々な質問含め、気軽にご連絡ください。

医学部医学科 海外派遣プログラム報告書

氏名 T.F. 学年（留学当時） 5 年

実習期間 2023年 3月 2日（水）～ 2023年 3月 23日（木）

留学先機関名 ミュンヘン大学

1 プログラム内容について

(1) 参加した留学プログラム

- ・海外リサーチ・クラークシップ 海外クリニカル・クラークシップ
・その他短期派遣プログラム（ ）

2 現地までの移動について

| | | 空港名 | 時間 | | 空港名 | 時間 |
|----------------------------|---|------|-------|------|------|-------|
| 往路 | 日本発 | 羽田空港 | 11:30 | 現地着 | MUC | 18:00 |
| | 経由地着 | | | 経由地発 | | |
| 復路 | 現地発 | MUC | 12:35 | 日本着 | 羽田空港 | 9:05 |
| | 経由地着 | | | 経由地発 | | |
| 到着空港から実習（宿泊）地までの移動手段・時間・金額 | 移動手段（ 電車 ） 所要時間：（ 40 ）分 金額目安：（約 2100 ）円・（ 14 ）ユーロ | | | | | |

3 宿泊先について

| | | | |
|-----------|---------------------|-----------------------|--------------------------|
| 滞在期間 | 2023年 3月 2日～ 3月 24日 | | |
| 宿泊タイプ | 寮 | 1 人部屋 共有設備：（コインランドリー） | |
| | ホテル・アパート | 人部屋 | |
| | ホームステイ | 人家族 自分以外の留学生（ ）人 | |
| | Airbnb・シェアハウス | 人で共同 | ホストの同居；あり・なし 共有設備：（ ） |
| 実習場所までの距離 | （ 電車 ）で（ 40 ）分 | | |
| 宿泊費用 | 7万円 / 1ヶ月 | | |

その他留意事項等

前泊（3月1日より一泊）：NOVOTEL MUNICH AIRPORT 17,000円/日

4 生活について

(1) 生活費（宿舎費を除く）：1ヶ月

| 項目 | 金額 | 内訳 |
|--------|------------------|----------------------|
| 食費 | 約4万円 | プログラム費用に昼食（院内食堂）代を含む |
| 学用品購入費 | なし | なし |
| 交通費 | (63.2€ (約9480円)) | 学生定期（プログラム費用に含まれる） |
| その他 | 約3万円 | お土産・通信費用等 |
| 合計 | 約8万円 | |

(2) 派遣先周辺地域の治安等

ミュンヘンは中心部を含めて全体的に治安が良い地域です。

寮は以前のオリンピック村が学生寮となっており、多くの学生が住んでいます。中心部まで電車で約10分の位置にありますが、治安に問題はありません。

病院は郊外に位置しており、こちらも治安が良いかと思えます。寮から電車で約40分の位置にあります。

(3) その他留意事項等

寮の鍵がオートロックのため、スペアの鍵を他の人と交換しておいた方がよいです。最低限の食器やベッドセットはありますが、タオル等はないので現地購入もしくは日本から持ってくる必要があります。

ネットに関して、Wi-Fiがないので有線で接続する必要があり、LANケーブルに加えてアダプターも持っていきましょう。ネットの設定は少し面倒なので、他の参加者と協力しながらトライしてみてください。

5 実習について

| 実習診療科と主な内容（血液・腫瘍内科（Hemato-oncology）） | |
|--------------------------------------|----------------------|
| 実習内容 | ① 朝8時から採血（約1時間） |
| | ② 9時頃から回診（約1時間半～2時間） |
| | ③ 心電図測定・身体診察等実施後、昼食 |
| | ④ 午後は講義（1時間半ほど） |
| | ⑤ 講義終了後解散 |

(1) プログラム初日の行動

10時から13時まで Prof. Dreyling によるイントロダクションがありました。自己紹介・プログラム説明の後、院内の施設について案内していただきました。昼食後は大腸癌に関する講義を1時間ほど受けて解散となりました。

(2) 実習詳細

実習で最も驚いたのは採血や心電図などの手技を患者相手にさせてもらえたことです。病棟初日に突然採血をしないかと聞かれた時は驚きましたが、最初のうちはバディにやり方を

説明してもらいながら行ったので、次第に慣れていきました。その他、心電図測定や身体診察も実際に患者さんを相手に行いました。

ドイツでは採血、血ガスや心電図測定などを医学生がメインで行っており、日本との違いを感じました。

病棟ではその他に腹水穿刺・骨髄穿刺・リンパ節生検・造血幹細胞移植の見学をしました。

回診中は医師が各患者について英語で説明があり、患者との会話中はバディが英語で通訳してくれたので、言語の壁はあまり感じませんでした。回診中に患者さんの心音や呼吸音の聴診をさせてもらうこともありました。

昼食の時間は特に決まっておらず、午後の講義の時間次第で、一通りやることが終わったタイミングで食堂に行くという形でした。食堂は日替わりのメニューが3つ（うち1つはベジタリアン向け）とサラダバーの中から1つ選ぶという形でした。昼食代はプログラムに含まれているので支払う必要はありませんでした。

午後の講義は1コマ約1時間～1時間半で、毎日1コマか2コマありました。

講義内容としては大腸癌・肺癌・乳癌など臓器別の講義に加えて、免疫療法・放射線療法・緩和ケアや放射線診断など検査・治療別の講義、Case Discussion など多岐にわたって行われました。

講義が終わると実習終了で、解散時間は大体16時前後でした。

配属される病棟は人によって異なり、私の場合は血液腫瘍内科でしたが、その他に消化器内科や整形外科などに配属された人もいました。

(3) 一日の主なスケジュール(平日)

| 時間 | 8:00 | 9:00 | 11:00 | 13:00 | 14:00 | 15:30 |
|----|------|------|-------------------------|-------|-------|-------|
| 行動 | 採血 | 回診 | ECG・採血・ 身体診察 etc. | 昼食 | 講義 | 解散 |

(4) 休日の過ごし方

週末のうち何日かは市内や別の都市への観光バスツアーが組まれていて、参加者たちと一緒に観光するという形になっていました。それ以外の日はBayern ticket（3名購入で一人当たり15€）という乗り放題の切符を買ってグループで遠出したり、市内の美術館に行ったりと、基本的に他の参加者と一緒に休日を過ごしていました。

(5) 留意事項等

予習しておくこと：医学英語、ドイツ語（日常会話レベル）、採血・心電図測定の方法

スクラブは院内のスクラブを着用するため、持ってくる必要はありませんでした。聴診器・白衣は持っていった方が良いです。

6 留学全般について

(1) 自身の成果・感想

ミュンヘン大学のプログラムで最も特徴的な点は、世界中の大学から医学生が集まって実習や講義を受けることができる点です。

今年度はOncology courseから20名、Neurology courseから8名の合計28名（留学生と現地学生が各14名）もの参加者が集まりました。

ブラジルから4名、日本・イタリア・スロベニアから各2名ずつ、タンザニア・チェコ・メキシコ・フランスから1名ずつと、多様な国々から医学生が集まっていました。彼らとの交流を通じて、様々な言語・文化・食事・医学教育等について学ぶことができ、多様性の重要性が謳われる現代社会において、大変貴重で興味深い経験をすることが出来ました。海外の同世代の医学生が何を考え、何に取り組んでいるのか、そんな話を聞くのはとても良い刺激となりました。

常に行動を共にしたバディの存在は、ドイツという異国の地で実習をするにあたって大変心強い存在となりました。横浜市立大学において本プログラムの初めての派遣ということで、ほとんど前知識がない中での実習となりましたが、採血や心電図測定の際も基本的にバディに見守られながら行うことが出来たので、安心して実習に臨むことが出来ました。

ドイツは英語を母国語とする国ではありませんので、言語の壁がどれほどあるのか心配なところでしたが、患者との会話はバディが通訳、回診の際はチームの医師が患者の説明を英語で行ってくれたため、それほど問題となりませんでした。講義も全て英語で行われ、多少難しい部分もありましたが、大変興味深いお話を聞くことが出来ました。

事前に予定表が配られるため予定を立てやすく、午前は病棟、午後は講義とメリハリのあるスケジュールで充実した日々を過ごすことが出来ました。

私が配属された血液腫瘍内科では白血病患者の他に、軟部腫瘍や膀胱癌患者など日本では別科で見ると同じ病棟内で診療されていたのが興味深かったです。

病棟実習だけでなく、バスツアーもプログラムとして組まれていることが特徴的で、金曜の午後に強制収容所に見学に行ったり、土日に観光に行ったりと、ミュンヘンの歴史や文化を学ぶことが出来ると同時に、他の参加者との交流の場となりました。

プログラム費用に院内食堂の食費・学生定期・学生寮が含まれているため、家探しの手間なしに比較的安価に滞在できるのが魅力です。一方、ミュンヘンは治安が良い代わりに物価が高く、レストラン等で外食をすると簡単に2千円を超えてしまうため、特に平日の夕食は自炊したり、ケバブなど安いもので済ましたりする人が多かった印象です。

(2) 今後の展望

同じ病棟に3週間いたため、配属先の病棟によって経験できる疾患や手技に偏りがあるように感じました。今年度の振り返りとしてそうした指摘をしましたが、来年度以降それが反映される

かは分かりません。ただ、本実習は自由度が高いため、学生同士でコンタクトを取って、先生方をお願いすればおそらく途中でスイッチすることも可能ではないかと思えます。

Neurology course に名古屋大学からも医学部の5年生が参加しており、来年度以降も派遣される可能性があるとのことでしたので、希望があれば来年度の参加者と取り次ぎ可能です。

(3) 後輩へのメッセージ

このプログラムを通じて生まれた、世界中の医学生との繋がりは自分の一生の宝になると思います。彼らとの交流を通して、言語・食事・宗教・教育…日本では知り得なかった文化を学ぶことができました。何より、将来の医療を担う、同世代の素晴らしい人たちと出会うことが出来たのは、かけがえのない経験です。

英語でコミュニケーションをとるのが難しいという人でも、恥ずかしがらずに積極的に話してみましよう。相手も英語のネイティブではありませんし、完璧な英語を話す必要はありません。重要なのは言語力じゃなく積極性です。実習や講義では積極的に質問を、週末は友達を誘って外に出かけることで、より充実した留学生活となるのではないかと思います。

来年は別の国から別の参加者がやって来ます。新しい場所で新しい人との出会いが待っているなんてワクワクしませんか。

(4) その他

プログラムの企画、運営にご尽力いただいた、横浜市立大学医学部およびミュンヘン大学の先生方に感謝いたします。また、医学教育推進課医学国際化担当の皆様には手続きや滞在準備など大変多くのサポートをしていただきました。

また、多大なご支援をいただいた横浜市立大学医学部医学科同窓会倶進会、医学部後援会の皆様に心より感謝申し上げます。

皆様のご支援なしには本プログラムへの参加は叶いませんでした。この場を借りて深く感謝申し上げます。